



No.46

令和七年冬春号

しんだん山梨

一般社団法人 山梨県中小企業診断士協会

◆ 会長挨拶

会長 市川 勝茂

～ AIの勉強をちょっとだけしてみた。～



今井豊治先生の著書「AIの未来予想」を拝読した。歴史や構造等難しい内容もあったが、診断士業務との関わりを私なりにとりまとめると、現代において特にAIの急速な進展はビジネスのあり方を根底から変えつつあります。生成

AIをはじめとする新たなテクノロジーは、経営戦略の策定、業務効率化、顧客体験の向上など、様々な分野で革新的な可能性を秘めています。

AIの活用はもはや選択肢ではなく、企業が生き残るための必須条件となりつつあります。中小企業診断士は企業の経営に関する診断を行い、改善策を提案する専門家です。経営戦略の立案、組織改革、財務分析など、幅広い分野の知識と経験が求められます。

AIは、これらの業務の一部を代替できる可能性を秘めています。例えば、大量のデータを迅速に分析し、経営課題を特定することで課題解決のための手段を導き出すことはもとより、過去のデータに基づいて将来の売上を予測することも可能です。そのため、私たち中小企業診断士が書籍やネット検索すれば出てくる程度の教科書どおりの経営分析や課題抽出、解決策の提案や経営計画の作成をしているだけでは、その存在意義はAIに代替されてしまいます。

こうした状況を回避するために中小企業診断士には、AIが苦手とする領域での能力を高めていく事が必要だと思う。AIは標準的なモデルに基づいて最適解を導き出すことは得意とされていますが、中小企業の複雑で個別具体的な状況に合わせた最適解を導き出すためには、人間ならではの柔軟な対応が不可欠です。また人として企業に寄り添い、安心感を与えると同時に経営者のモチベーションを高めることができる人間力も大切です。

AIの発展は中小企業診断士の仕事に変化をもたらしますが、AIをツールとして活用することで同時に新たな可能性も開けてくるかも知れませんが、次の世代の皆様をお願いします。

甲州商人の様子

商家の長男に生まれた私は、慣習により小学3年より祖父又兵衛の元に預けられ、甲州商人の薫陶を中学卒業まで受けました。子供心にもなりた職業とは思われず、法学部に進み公務員になってしまいました。あの時祖父はどう思っていたのでしょうか。

今回、祖父が晩酌の折に語った商家口伝を思い出し、診断士としてその背景や意図など推測したいと思います。現代の経営に活きることがあれば祖父も幸いと思うはずです。

寿司屋でお見合い

甲州商人口伝 (その九)

戦前戦後に活躍しました、甲州商人はこんな風に考え、高い(バイ)をしていました。現代に活きる部分もあるでしょうか。

「寿司屋でお見合い」

大きな寿司で有名な老舗の寿司屋さんがいます。昔からそこで商人がお見合いをしていました。

「お見合いの席では、女性の寿司にだけ包丁を入れておく」ことが商人の口伝でした。女性は「細やかな気配りが出来るやさしい人」と思い込み、成婚率が非常に高かったそうです。祖母も母もこれに騙され、「梅しい」と常々申しておりました。

◆診断制度の普及と推進

副会長 斉藤 竜



2025年になり早くも四半期が過ぎようとしています。1月以降いくつかの関係機関と連携強化のあり方について意見交換をさせていただきました。ショートセミナー等による経営者との接点づくりや診断士の認知向上策、支援の手が回りき

っていない有事に移行する前の事業者への支援など、我々診断士へのニーズは多々ありそうです。

問題はこれらをリード育成の営業活動と捉え無収益を是と出来るか。そう出来れば、事業者との接点は従来以上に獲得・拡大できます。そうで無い場合は、収益化の為のスキームが必要となります。もちろん容易な話しではありません。

2024年中小企業白書では「支援機関の活用が広がり、相談内容が高度化する中で、支援機関の人員不足や支援ノウハウ・知見の不足が顕在化。他の機関との連携も含め、支援体制の強化が必要」としています。他には「人材の確保に向けては、経営戦略と一体化した人材戦略を策定した上で、職場環境の整備に取り組むことが重要」「人手不足への対応策として、採用等の人材確保に加えて省力化に向けた設備投資も必要」「今後は低コスト化・数量増加以上に、単価の引上げによる生産性の向上も追及する必要がある。」とも書いています

後段の内容は、言葉にすれば至極当然ですが、容易な道筋ではありません。ゆえに前段にある通り、支援機関相互の連携も含んだ支援体制の強化が必要とされ、我々「事業の専門家」の活躍の場です。

もう少し情報収集を進め皆様からのご意見もいただきながら、具体的な提案にしていきたいと考えています。

◆生成AI時代の中小企業経営

変化をチャンスに変える視点

副会長 藤原 一正



2025年度も協会運営に携わらせていただきます。引き続きよろしくお願い致します。

近年、急速に進化する生成AI(ChatGPT等)の登場は、大企業だけでなく中小企業にとっても大きなインパクトを与え

ています。業務効率化や情報収集、マーケティング、さらには新たなサービス創出まで、多岐にわたる活用が可能となっており、「AIを使える企業」と「使えない企業」で、今後の競争力に大きな差が生まれることが予想されます。

とはいえ、導入にはリソースや知識の壁も存在します。そこで重要なのが、外部支援の活用や、まずは一部業務から試験的にAIを導入していく「スモールスタート」の考え方です。たとえば、社内文書の作成支援、顧客対応のチャットボット化など、目に見える成果が得られる領域から始めることが推奨されます。

2025年3月に山梨県協会でも今後を見据えた生成AIの活用方法について、外部の専門家を招いて研修会を実施します。京都大学発の学生スタートアップを起業した株式会社FIRST AIの役員山内悠真氏をお招きし、企業における生成AIの活用方法について学ぶ場とします。

我々中小企業診断士は、AI技術の専門家ではなくとも、経営と現場の橋渡し役として、中小企業が時代の変化に柔軟に適應するための支援が可能と思われます。生成AI時代における「変化対応力」こそが、地域企業の持続的成長の鍵を握っていると考えます。

今年度は引き続き様々な分野の研修を定期的に行い、会員の能力向上を図っていききたいと思いますのでぜひ多くの会員の皆様に御参加いただけたらと思います。よろしくお願い申し上げます。

◆中小企業の海外展開支援を テーマに理論政策更新研修を開催

藤原 一正



令和6年9月21日、山梨県立中小企業人材開発センターにて、令和6年度理論政策更新研修が開催されました。今回は「中小企業の海外展開支援」をテーマに、約80名の参加者が集い、理論と実践の両面

から学ぶ貴重な機会となりました。

前半の講義では、毎年やまなし産業支援機構から新しい中小企業政策について金子政一氏に最近の中小企業支援情報についてご講演いただきました。

また、元ソニー勤務で海外駐在経験も豊富な中小企業診断士・池田真一郎氏に登壇いただき、海外展開の戦略立案やリスク管理、現地パートナーとの連携など、実務に即した幅広い視点からの講演が行われました。グローバル市場で成功するための要点が整理され、わかりやすくご講演いただきました。

後半は、ジェトロ山梨の浜田哲一所長、海外進出に成功している経営者、アグベル株式会社の丸山桂佑社長、講演いただいた池田氏、そしてコーディネーターとして当協会の中小企業診断士荻木正史氏を迎え、パネルディスカッションが実施されました。公的支援制度の活用法や、現場でのリアルな課題、成功・失敗の事例が共有され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

中小企業の海外展開は、人口減少と国内市場縮小の中でますます重要なテーマとなっています。



本研修を通じて、会員参加者一人ひとりが支援者としての役割を再確認し、今後の実務に活かすためのヒントを得る場となりました。

◆「診断士の日」開催報告

YES! 中小企業の未来と地域発展を考える

中村 耀佑



令和6年11月5日に甲府市の談露館にて山梨県中小企業診断士協会主催で「中小企業診断士の日」記念イベントを実施致しました。第一部：ワークショップ、第二部：立食スタイルの懇親会とし、当協会正会員と賛助会員による協力体制

強化のための交流が行われました。

『YES! Yamanashi Evolution Summit 中小企業の未来と地域発展を考える』と題したワークショップを実施し、中小企業診断士である正会員と中小企業経営支援機関団体である賛助会員の皆様との相互交流、今後の支援についてのアイデアソンを行いました。具体的には、地方創生のしごと・まち・ひとをキーワードにしたグループ対話を「YES AND 話法」で行う構成とし、①三つのキーワード毎に分かれたグループで智慧を磨き合う「深める対話」の後に、②三つのキーワードのメンバー同士でつくる混在グループで深めた気づきを持ち寄る「可能性を拓ける対話」を実施し、最後は③各グループ提言のプレゼンテーションを互いに共有しました。短時間ながら、活気のある対話を通して、個性豊かなアイデアが共創されました。



◆事業承継研究会

研究会代表 岩崎 慎太郎



事業承継研究会は、地域企業が円滑に次の世代へ事業を引き継ぎ、持続的に発展していくことを支援するために設立されました。経営者の世代交代にともなう事業承継は、単なる引き継ぎにとどまらず、企業の安定経営と成長を維持す

るために、多様な知識や実務的なスキルが求められます。私たちは、公的機関や支援団体と連携しながら、地域経済の活性化に寄与することを目指して活動しています。

事業承継の課題は多岐にわたります。税務や承継スキームの設計といった基本的な対応に加え、第三者承継後のPMI(統合プロセス)や組織再編、そして後継者の育成など、承継後も見据えた継続的な支援が欠かせません。研究会では、こうした複雑化・高度化するニーズに応えるため、実際の事例をもとに意見交換を行い、支援に必要な力と専門性を磨く場としています。

また、多様なメンバーが集うこの研究会では、実際の企業の事業承継における具体的な課題を取り上げ、それぞれの立場から解決策を検討していきます。こうした取り組みを通じて、企業の安定した事業継続や発展を支える支援体制を築いていきたいと考えています。山梨県内の中小企業が次世代に向けてしっかりと歩みを進められるよう、地域に根差した支援活動を展開してまいります。

さらに、事業承継は一時的な対応ではなく、企業戦略の一部として長期的に取り組むべきものと捉えています。後継者の育成や承継後の組織運営体制づくりなど、多角的な支援を行うために、今後も実務力を高め、地域企業の伴走者としての役割を果たしていく所存です。

◆食と農研究会の紹介

研究会代表 池田 哲郎



食と農研究会は、地域の「食」と「農」に関連する事業者や現場の実態を調査し、その支援を行うことを目的とした研究会です。私たちはHACCP導入実態調査や、コロナ禍における県内ワイナリーの経営実態ヒアリングなどを通じて、

山梨県の事業者を支援しています。

最近では、甲府駅周辺の飲食店の増加を通じて地域の賑わいを感じられ、これらの飲食店や関連する農産物、ワイナリーは山梨県の重要な資産として地域の魅力を支えています。しかし、新型コロナウイルスの影響により多くの事業者が経営困難に直面し、新たなビジネスモデルの模索が急務となっています。

食と農研究会では、こうした変化に対応すべく「ウィズコロナ・アフターコロナにおけるワイナリーのビジネスモデル研究」をメインテーマに掲げ、ワイナリー経営者からの直接の話を元に、支援策を検討しています。2025年度も引き続き、同様の調査と支援活動を続けていく予定です。

現在、研究会のメンバーは10名で、独立診断士や企業内診断士、企業経営者、公的機関職員など多様な背景を持つメンバーが参加しています。ワイナリーの立ち上げや販売・マーケティングに関わるメンバーもあり、実践的な知見を共有しています。人的ネットワークの構築も重視し、積極的に交流の機会を設けています。

山梨県の食と農の未来を共に考え、支援したいとお考えの方は、お気軽にご連絡ください。

連絡先

代表者：池田 哲郎

連絡先メールアドレス：ikedata@giraffe-c.com

◆観光研究会の紹介

研究会代表 岩崎 真朗



山梨県観光文化部観光文化政策課が令和6年10月31日に発表した「令和5年山梨県観光入込客統計調査結果」によりますと、令和5年1月～12月の山梨県の観光入込客数(全体)は2,575万4千人(対前年比△6.0%)、日帰り客数1,795万3千人(対前年比△6.7%)、宿泊客数780万(対前年比△4.2%)、観光消費額3,175億円(対前年比+3.5%)という結果になりました。なお、外国人延べ宿泊者数は142万3千人(対前年比+751.1%)と大幅に増加しています。地域別では、峡中427万9千人(対前年比△18.1%)、峡東402万1千人(対前年比△20.7%)、峡北238万4千人(対前年比△21.0%)、峡南197万7千人(+2.8%)、富士・東部1,309万2千人(+7.8%)と地域によって大きな偏りがあることが浮き彫りになりました。

そのような経営環境の中、県内観光業においては、コロナ禍において離職した従業員の戻りが弱い上、少子高齢化にともなう就労候補者数の減少さらには最低賃金引き上げに伴う人件費高騰により、営業体制を十分に構築出来ず売り逃しが発生するなどの課題が顕著になっている状況です。

観光研究会ではこのような事業者様のお悩みに対する解決策の研究を行うため、2月4日～7日に東京ビッグサイトで開催された「第53回国際ホテル・レストランショー」の視察を行いました。この展示会では、観光業における省力化のヒントになる各種ロボット(配膳・清掃など)や自動化設備・システム(自動チェックイン・精算、自動調理器・食洗器など)をはじめ、調理時間の短縮につながる材料、さらには、外国人就労者の受け入れ・教育サポートサービスなどについての知見を深めることができました。今後は、これらの知見を踏まえながら、中小企業省力化補助金などの活用も視野に入れた事業者様への支援策について研究して参ります。

◆創業研究会の紹介

研究会代表 中村 耀佑



やまなし創業研究会は、創業される方・創業を志望している方・創業について関心がある方に対して、経営者としての心構え、今後の礎となる経営理念や目的の設定、強みや特徴を活かすための商品開発やマーケティングの具体的な

ご支援、日々の事業運営に役立つ情報提供、等々について研鑽して参ります。

毎年5月頃に開催される甲府商工会議所様の「創業セミナー」では、一般社団法人山梨県中小企業診断士協会へ講師派遣のご依頼を頂いております。当研究会は本事業に協力し、セミナー企画制作と講師登壇を担当しております。私たちが提供するセミナーでは、日本政策金融公庫「創業計画書」作成支援をベースにおき、創業者一人ひとりが持つ強みや思いを、実現可能なストーリーとなるように創業計画を描くことを支援します。創業者の強みと社会課題やニーズが調和した計画とし、物心両面で充実した創業となることを目指します。具体的には、創業目的、商品開発戦略、マーケティング、経理・税務・財務、労務、IT活用、についての講義による知識習得と演習ワークショップによる実践的な学びを提供し、創業計画作成支援では講師を交えた受講者同士のグループ対話などを通じた学び合いを行い、主体性と多様性による気づきを促す場づくりを行っています。

創業支援策の研鑽とセミナー運営ノウハウを活用するべく、県内各機関との連携も拡げてゆきたいと考えており、地域活性化への取り組みとの協業なども随時行って参ります。

連絡先

代表者：中村 耀佑

連絡先メールアドレス：nakamura@nyunited.net

◆新入会員紹介

佐藤 誠一郎



この度、山梨県中小企業診断士協会に新たに加入させていただきました佐藤 誠一郎と申します。

大学院修了後、精密機械メーカーでシステムエンジニアとして勤務しておりました。2012年に会社を早期退職して独

立、すぐに千葉県中小企業団体中央会で企業連携のコーディネーターの仕事をし、その縁で、現在、千葉県中小企業診断士協会にも加入しております。

大学、大学院と山梨大学に在学しており6年間の学生生活を甲府で過ごしました。学生時代の友人や先輩、後輩の多くが山梨におり、いつかは山梨で仕事がしたいと考えておりました。やっとコンサルタントとしての10年以上の経験を活かせるようになったと考え、山梨県協会に加入することにしました。

元々、製造業に籍を置いていたこともあり、製造業の支援に強みを持っております。千葉県協会では製造業研究会を立ち上げ、また、東京協会の製造業プロコンの事務局として活動するなど製造業に関する支援ノウハウを活かして現場の改善や経営顧問、補助金の作成支援など幅広く活動しております。

また、製造業以外では、埼玉県のある町のシティプロモーションのお手伝いをしたのをきっかけに様々な市町村のまちの活性化に関する支援を自分の会社のメンバーと一緒にしております。

独立してすでに13年目に入り、上記以外の分野でも専門家相談やセミナーの実施など様々な職種の企業様の支援をしてまいりましたので、それらの経験を生かして山梨県の企業様の課題解決に貢献できればと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

◆新入会員紹介

山縣 智也



この度入会させていただきました山縣と申します。笛吹市出身、日川高校卒の33歳です。現在は東京在住ですが、山梨へのUターンを予定しております。診断士登録は令和3年で、これまでは企業内診断士として補助金を活用した成

長投資支援や財務面での経営改善支援などを行ってきました。

診断士に関心を持ったのは中学1年の職業調べの時です。将来の夢が“プロ野球選手”だった私に対し、当時の担任の先生から“現実的な職業を見つけるように”と渡された職業図鑑で見つけました。“地域の中小企業へ貢献できる仕事がしたい”という思いの中で、漠然と“経営”という分野に関心が生まれた程度のものでしたが、当時の関心のまま大学で経営学を学び金融機関に就職したという点では大きなきっかけだったと感じています。

大学卒業後は金融機関に就職し、一次産業向けの融資業務や6次化支援などを中心に経験を積んでまいりました。特に昨年までの6年間は水産業を軸に漁業者様や水産加工会社様向けに制度資金や補助金の提案とともに財務面での経営改善支援などに取り組んできました。現在は大企業を中心とした法人営業部門の企画セクションに所属し、データ分析等を通じた営業施策の企画などを行っております。

山梨県協会への加入を機に長年の目標であった山梨の地元経済へ貢献できるような活動を広げていきたいです。“一次産業”、“財務”、“データ利活用”といった文脈で、中小企業の皆様の課題やお悩みを解決できるようなご支援・提案ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆新入会員紹介

高橋 祐貴



皆さん、はじめまして。診断士を取得するのに18年かかった高橋と申します。私はこれまで銀行員として厳しい「現実」と向き合い、釣りで人生を見つめ直し、商工会での経験を通じて、経営支援に情熱を注いできました。

銀行員時代には、「中小企業の支援がしたい!」と意気込んだものの、現場の厳しさに圧倒され、4年で限界を迎えました。銀行を退職して2年間は仕事を離れ、毎日風呂でもウキと過ごすほど海釣りに没頭し、自分なりの「ウキ上がり再生計画」を実施しました。

その後、ハローワークで見つけた商工会職員として7年半を過ごし、中小企業の経営相談やBCP策定に携わりながら、経営者と共に汗を流しました。商工会では、診断士の先輩の助言でマーケティングに興味を持ち、意を決してExecutive MBAに挑戦。ギリギリの単位で修了しましたが、フレームワーク研究の楽しさと新たな視点を得ることができました。

現在、静岡県富士市で事務所を開業し、3児の父として家事・育児・仕事に励む日々を送っています。山梨は私にとって特別な場所であり、河口湖で妻にプロポーズした思い出も胸に刻まれています。趣味のフレームワーク研究を活用し、中小企業の経営改善や新規事業支援に尽力してまいります。

これからも、先輩診断士の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆編集後記

しんだん山梨編集部

大きく、速く、不規則に変化する社会が当たり前になりつつあり、対応する企業や組織にはレジリエンスやエンゲージメント、これらを育むリーダーシップがさらに重要な要素となっていると感じます。

過去のリーダーシップのイメージでは、ひとりの強力なリーダーがメンバーを主導し、正解に向かって全員一丸となって進む指導力が求められました。

これから発生するであろう様々な困難に立ち向かうためには、従来のリーダーシップに加えてメンバー一人ひとりの多様性を尊重し、主体性や内発的動機を引き出しつつ、現場で得られる実践知をチームの成功に導く力として結集する能力も必要です。

私たちに求められる役割が複雑化するなかで、個人の努力に加えて、テクノロジーを活用することも不可欠になりつつあります。今号でも生成AIに関する話題がいくつか出されているように、活用すべきテクノロジーのひとつとして注目を集めています。そこで、本号の裏表紙の記事を生成AIで作成を試み本号の締め括りしたいと思います。

1. 中小企業診断士を知っていますかと尋ねる
2. 山梨県協会の会報を作っていることを伝える
3. 会報の主な内容を教えた上で、一目置かれる裏表紙を作りたいことを伝える
4. 裏表紙用のテーマとして5つ出されたテーマ案から2つを使った記事を作成してもらう
5. 上記を1,000文字程度にまとめてもらう
6. 序文を加えてもらう
7. 小見出しをつけてもらう
8. 謙虚さを加えてもらう

生成AIと上記のやりとりから作成した裏表紙記事を、私たちへの2025年度への期待とエールとしてご覧ください。

◆山梨県における中小企業診断士について2025年度の期待

しんだん山梨編集部

中小企業診断士は、地域経済の発展を支える一助となるべく日々活動しています。私たち診断士は、経営の専門家として直接的な力を発揮することはもちろん、地域社会に貢献するために、常に謙虚な姿勢で学び続けています。2025年度に向けて、山梨県の中小企業診断士にはさらなる期待が寄せられています。この地域における中小企業の支援を通じ、持続可能な経済成長に貢献するため、今後どのような役割を果たしていくべきかを考えてみます。

1. 地域特性に即した経営支援

山梨県は、観光業、農業、製造業など、独自の地域特性を持つ産業が集まる地域です。観光業では、自然資源や文化的資産を最大限に活用した新たな集客戦略の構築が求められ、農業では生産性向上と効率的な流通の仕組み作りが急務です。また、製造業では、デジタル技術を取り入れた生産管理の改善が必要です。中小企業診断士は、これらの地域企業の強みを見出し、それに適した経営支援を行い、持続可能な成長に向けて共に歩む存在でありたいと考えています。

2. デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

デジタル化は、今後の企業競争力を大きく左右します。山梨県内でも多くの中小企業がデジタル技術を活用し始めていますが、まだ道半ばの企業も少なくありません。中小企業診断士は、AIやIoTなどの技術をどのように導入し、経営の効率化を図るかをアドバイスし、手助けしていく必要があります。診断士としての役割は、単に知識を提供することにとどまらず、企業の未来を見据えた具体的な支援を行う

ことにあります。

3. 持続可能な経営の実現

環境問題への関心が高まる中、企業においても持続可能な経営への転換が求められています。再生可能エネルギーの導入や循環型経済を目指すビジネスモデルへの移行が急務です。特に山梨県では、農業や製造業を中心に環境への配慮が求められる場面が多く、診断士としては、企業が環境負荷を減らしながらも成長を続けられるよう支援していかなければなりません。社会的責任を果たす企業活動の支援を通じ、地域社会に貢献することが私たちの役割です。

4. 人材育成と地域経済の活性化

企業の成長に欠かせないのは、優れた人材の育成です。経営者のリーダーシップを強化し、従業員のスキルアップを促進するための支援が求められます。また、地域企業間の連携を深め、相互支援のネットワークを構築することも重要です。中小企業診断士は、単なる経営コンサルタントにとどまらず、地域全体の経済活性化に貢献するための橋渡し役として、常に謙虚な姿勢で活動をしていきたいと考えています。

5. まとめ

2025年度を迎えるにあたり、山梨県の中小企業診断士には多様な期待が寄せられています。地域の特性に即した経営支援、デジタル化の推進、持続可能な経営の実現、人材育成と地域経済の活性化。これらの役割を果たすため、私たち診断士は一層の努力と学びを続け、地域経済の発展に貢献し続ける所存です。診断士としての誇りを持ちつつ、謙虚な姿勢で地域に貢献していくことが、今後の大きな使命であると感じています。